

ごあいさつ (事業の概況)

初夏の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は変わらぬご支援を賜り有り難く厚くお礼を申し上げます。

令和3年度は、長引く新型コロナウイルス感染症による影響の中、一部に持ち直しの動きを見せつつも、断続的に発出された緊急事態宣言により経済活動が抑制され、当地においても対面型サービス業等を中心に大きな影響が出ております。

また、「ウィズコロナ」下における消費者行動、企業活動の変化、世界的な経済活動の停滞により、引き続き見通しが不透明な状況にあります。

こうした中、日本経済は、ロシアのウクライナ侵攻による経済制裁、資源価格の高騰等による影響が懸念される他、米国を中心とした海外中央銀行がインフレ抑制のために量的緩和の縮小に加え、利上げへと金融政策を変更したことで円安が進み、不確実性が更に増しているところであります。

このような状況下において、令和3年度の当金庫の業績につきましては、預金は期末残高220,401百万円となり、前年度末比5,221百万円増加いたしました。貸出金は期末残高72,792百万円となり前年度末比205百万円増加し、その結果、預貸率は33.02%となりました。有価証券につきましては期末残高85,829百万円となり、前年度末比814百万円の減少となりました。

損益状況につきましては、有価証券利息の増加と経費の削減効果等により、コア業務純益439百万円、経常利益212百万円、当期純利益217百万円となりました。

令和3年度は、新3か年事業計画『支援力の強化と変革への挑戦～課題解決による地域経済の力強い回復と金庫の経営基盤強化を目指して～』の初年度にあたり、4つの基本方針である①「事業性評価に基づく課題解決型の企業支援や個人支援」、②「収益力・経営基盤の強化」、③「持続可能な地域社会を目指すSDGsへの取り組み」、④「経営理念を実現する人材の育成」の下、地域社会や地域の方々に寄り添い、「お客様の為になり役に立つ」活動を実践し、「地域に必要とされる金融機関」を目指してまいりました。

令和4年度におきましても引き続き、お客様に信頼され必要とされる協同組織金融機関として、コンプライアンスを経営の最重要課題としたうえで健全経営に努めます。併せて、長引く新型コロナウイルスの影響などによる中小企業や個人のお客様の抱える諸問題をきめ細やかに把握し、金融仲介機能やコンサルティング機能を十分に発揮することにより地域の持続的発展に貢献するべく役職員一丸となって業務に邁進する所存でございます。

結びに皆様方の一層のご発展、ご隆昌を心からお祈り申し上げますとともに、新年度も一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

令和4年7月



理事長 大堀 芳和